

American Rock Lyrics Landscape



—アメリカン・ロック・リリック・ランドスケープ—

ロックの歌詞から見えてくるアメリカの風景

文=ジョージ・カックル

イラストレーション=花井祐介

第35回

ルパート・ホウムズ

「エスケイプ(ザ・ピニャ・コラーダ・ソング)」

“本当の愛”を歌ったミリオン・セラー



Rupert Holmes
“Partners In Crime”
Infinity ♪ INF9020 [1979]
➔ゲフィン ©UICY15166

今回取り上げた「エスケイプ」は、アメリカでは「ザ・ピニャ・コラーダ・ソング」という別名の方が有名な曲だ。79年に出された『パートナーズ・イン・クラ임』のリード・トラックで、シングル・カットされた。当初、ラジオのリスナーたちはサビに出てくる「ピニャ・コラーダ」が曲名だと思っていたせいでセールスが伸びなかったが、曲名のあとに (The Pina Colada

Song) というクレジットを加えるとチャートを駆け上がり、70年代最後の『ビルボード』ホット100のナンバー・ワンに輝いた。そして80年代の2番目のナンバー・ワンにもなった。80年の最初のナンバー・ワンはKC&G・サンシャイン・バンドの「プリーズ・ドント・ゴー」だったが、その次の週では「エスケイプ」がもう一度ナンバー・ワンに返り咲いたんだ。ルパート

本人は、曲名に「ピニャ・コラーダ」と加えることは本意だったらしいが、結果的にはナンバー・ワンにつながったんだ。

ピニャ・コラーダは、ラムをベースに、パインアップル・ジュースとココナッツ・ミルクを混ぜたトロピカル・ドリンクだ。54年にプエルトリコでパーティーのラモン・マレロがカリブ・ヒルトン・インターナショナル・ホテルで作ったと言われ、78年にはプエルトリコの公式飲料になった。そしてこの曲のヒットのおかげで、世界中で知られるトロピカル・ドリンクとなった。

ルパートはアメリカ人だが、父がアメリカの軍人だったので、イギリスに生まれている。この曲がヒットする前から彼はさまざまな音楽活動をしていた。70年代にはカフ・リンクスやブイズ (The Buoys) のメンバーで、プラターズやドリフターズの曲を書いたりアレンジしたりもしていた。71年24歳のとき「ティモシー」でヒットを出している。その後、バーブラ・ストライサンドやスパークスのアルバムもプロデュースした。しかし、彼がスーパースターになったのは、まさにこの曲のヒットのおかげだ。この曲の背景にはアメリカのカルチャー

が見え隠れする。俺は大人になってアメリカに初めて住んだとき、日本にはなかったいくつかの習慣を味わった。そのひとつは、毎週日曜の朝に新聞を買って、彼女と一緒に寛いで、ゆっくりと時間をかけて読むこと。アメリカの日曜日にカフェに行つたことがあれば、きつと目にした光景だと思う。たまに自分の家のベッドの上でテーブルを使い朝食を食べながら読む時もあるが、カフェで読む方が贅沢な気持ちになれるので、できるだけ外に読むにいく (シブレットフアスト・イン・ベッド) は男が作る習慣だしね)。アメリカの日曜の新聞は、平日や土曜日の新聞とは全然違う。まず、すごく厚い。平日の10倍ぐらいのページ数がある。その中にはもちろんニュースもあるし、その1週間のライヴや映画のリストも載っている。オペラやシンフォニーの情報、博物館や美術館やライヴエート・ギャラリイの展示情報。不動産情報ももちろんある。なにしろ小さな広告が盛り沢山だ。車や家具を売る人もいれば、葬式の情報などもある。そのセクションは「パーソナル・コラム」といって料金が安く、誰でも利用できる。恋人を捜しているデイト・サイトも

あって、色々な人が色々な人を探しているから面白い。そして、現代のサイトと同様に様々なコードがある。例えば「SWF」なら「シングル」、ホワイト、フィメール」の略だ。「GM」はゲイの男性。この曲は自分に彼女がいるのに、新聞のその欄を読み、他の女性とデイトしてしまふ男の話だ。

I was tired of my lady
We've been together too long
Like a worn out recording
Of a favorite song
So while she lay there sleeping
I read the paper in bed
And in the personal columns
There was this letter I read

「僕は自分の彼女に飽きていた。一緒にいるのが長過ぎたからね。まるで、お気に入りの曲が入ったすり切れたレコードみたくに」。この「my lady」は、彼女または妻のことだ。「だから彼女が横で寝ている間に、僕はベッドで新聞を読んだ。そしたら、パーソナル・コラムのところで、ある告知を読んだんだ」。ここの「letter」は実際

の手紙ではなくて、先に触れた個人広告のことを言っている。

(chorus)
If you like Pina Coladas
And getting caught in the rain
If you're not into yoga
If you have half a brain
If you like making love at midnight
In the dunes on the Cape
Then I'm the love that you look for
Write to me and escape

「そこにはいつ書いてあった。あなたがピニャ・コラーダも、雨に降られることも好きで、ヨガにあまり興味がなくて、脳みそが半分でもあって、ケイブコッドの砂丘で真夜中に愛し合うのが好きだったら、あなたが探しているのは私です。私に返事を下さい、一緒に逃避行をしましょう」。この個人広告を出したのは女性という設定。If you have half a brain」は直訳を記したが、「それほど頭が悪くないなら」といったニュアンスだ。「the Cape」はマサチューセッツ州東部の半島を指しているのだろ

う。夏の観光地として有名なところだ。

I didn't think about my lady
I know that sounds kind of mean
But me and my old lady
Had fallen into the same old dull routine

▲僕は自分の彼女のごとは考えなかった。ちょっと卑劣に聞こえるのは分かっているけど、僕と僕の彼女は、同じことの退屈な繰り返しの中に落ち込んでしまっていたんだ。この「mean」は、中間の、ではなく、▲卑劣な▲という意味だ。

So I wrote to the paper
And took out a personal ad
And though I'm nobody's poet
I thought it wasn't half bad

▲だから僕も新聞に返事を載せようと、個人広告欄を買ったんだ。ここで使われている「took out」は「買う」という意味つまり、返事の個人広告「personal ad」を出したわけだ。▲僕は詩人じゃないけど、そんなに悪くはないと思つたよ。この



'nobody's poet' は、誰も知らない詩人のこと。ファンがない詩人と言えはいいだろうか。そして「half bad」この▲半分悪くない▲というのには、自分が下手だと分かっているのに、いいと思う時に使う言葉だ。

(chorus)
Yes I like Pina Colodas
And getting caught in the rain
I'm not much into health food
I am into champagne
I got to meet you by tomorrow noon
And cut through all this red tape
At a bar called O'Malley's
Where we'll plan our escape

▲そう、僕はピニャ・コラーダが好きだし雨に降られるのも好きだよ。健康食品にはあまり興味が無い。シャンペンの方がいいな。明日のお昼に会って、この赤いテープを切つてしまおうよ。'red tape'とは、面倒臭いルールや法律のこと。つまり、日常から逃げ出そう、という意味だ。'health food' とあるのは、女性が出した広告にヨガのことがあったから、それに合わせたわ

けだ。当時のアメリカは、自然食やヨガなどヘルシーなことがはやり始めた時期だった。▲オマリズというバーで僕たちの逃避行を計画しよう。この「O'Malley's」は、名前から想像できおよぶようにマイリッシー・バーなので、安全な場所に聞こえるんだ。

So I waited with high hopes
And she walked in the place
I knew her smile in an instant
I knew the curve of her face

▲僕はすごく期待して待っていた。そして彼女が入ってきた。僕はその彼女の笑顔で一瞬にして分かった。僕は彼女の輪郭に見覚えがあった。ここから、その女性が自分の彼女だと気づいた様子を歌っている。

It was my own lovely lady
And she said, "Ah it's you"
And we laughed for a moment
And I said "I never knew"

▲それは僕の彼女だった。そして彼女がこう言った、ああ、あなたなのよ。僕た

ちはしばらくの間お互いに笑い合つて、僕はこう言った、知らなかったよ……

(chorus)
That you like Pina Colodas
And getting caught in the rain
And the feel of the ocean
And the taste of champagne
If you like making love at midnight
In the dunes on the Cape
You're the lady I look for
Come with me and escape

▲君がピニャ・コラーダや雨に降られるのが好きだったり、海を感じたり、シャンパンを味わったり、ケイプコッドの砂丘で真夜中に愛し合うのが好きだったなんて知らなかったよ。君こそ僕が探していた女性だ。僕と一緒に逃避行しよう

(chorus)
If you like Pina Colodas
And getting caught in the rain
If you're not into Yoga
If you have half a brain

If you like making love at midnight
In the dunes on the Cape
I'm the love that you look for
Write to me and escape

▲あなたがピニャ・コラーダも、雨に降られることも好きで、ヨガにあまり興味がなくて、脳みそが半分でもあって、ケイプコッドの砂丘で真夜中に愛し合うのが好きだったら、あなたが探しているのは私です。私に返事を下さい、逃避行しましょう

この曲がヒットしたとき、この曲に出てくる二人とも単に浮気しただけじゃないかと解釈する人もいたが、一方では二人がお互いのバカな行動をこんなふうにし合うというのが本当の愛だと語る人も多かった。当時、カップルたちがディナーに行くと、皆この曲を話題にしていたものだ。俺はすごく笑えるいいストーリーだと思う。長く一緒にいると、時々、自分たちの関係がどんなに大切なものか忘れてしまつものだ。この曲の歌詞には、これから楽しい人生が続きそうな空気が漂っていて、すごくハッピーになれるよ。